

## カードを使って漢字遊び

幼児の教育は、すべて“遊び”を通して行なわれるものです。漢字教育もまた、それ自身が遊びでなければ成功しません。わたしが幼い時の記憶では、かなを全部覚えたのは“いろはかるた”でした。かるた遊びをしているうちに、絵と字とが結びついて、いつともなく字形まで覚えてしまったものです。

現在では、“漢字かるた”や“漢字カード”などが出ていて、すでに多くの家庭で利用されています。

“漢字カード”は、一般的に、口・目・耳などの基本漢字、先生・幼稚園などの熟語、歩く・遊ぶなどの動詞、重い・長いなどの形容詞がそれぞれ数十語、その他全部で数百枚一組になっています。表が絵、裏が漢字のカードもあり、いろいろなゲームをして遊ぶうちに、いつか名詞・形容詞等を漢字で覚えてしまうので、文章を読むのにすぐに役立つという効果があります。

これらの教材は、いまのところ、幼稚園を通じて販売されている場合が多いかもしれませんが、ちょっと工夫すれば、手作りでできますし、お母さんの手作りは、どんなに粗末なものでも、子どもにとっては、なににもまして尊く、楽しいものです。

## 家の中に漢字で名札貼り

幼稚園でよくやっている遊びに、“名札貼り”があります。机・黒板・時計・柱・壁・窓・花瓶……など、実物に一つ一つ名札を貼りつけて、実物と漢字と結びつくように計画しているわけです。

また、教室には、「静かに」、廊下には「走らない」とか「右側を歩く」とか、洗面所には「手を拭く」とか、滑り台には「順序よく」とか、注意を書いた札が貼られています。

こういう幼稚園では、下駄箱の名札は、もちろん、漢字です。かなだとなかなか自分の場所が見つからず、混乱していたものが、漢字に改めたらすぐ見つかるらしく、混乱がなくなってしまった、ということです。

家庭では、名札貼りは来客を驚かして、具合が悪いでしょうが、子ども部屋があれば、これはできます。あるお宅では、お手洗いに、毎日、漢字カードを変えて貼っている、というお話を聞きました。「それほどまでにしなくても」とお考えの方も多いと思いますが、いいこと、役立つことは、工夫して実行してみることが、大切ではないでしょうか。それが成功へのかぎともなるのです。そして、どこまでも必要なことは、親子とともに楽しむ雰囲気で行なわなければだめだということです。